

いのち 生命をみつめる学問に向かって

大内山 義明先生

医学部長 盛生倫夫

新入生諸君、入学おめでとう。諸君の中にはこれまで受験勉強一途の生活のため、人間性をやや犠牲にしてきた者もあるかもしれません。教科書やノートを友として、人との付き合いが下手になっている者もあるかもしれません。医学も、薬学も生命をみつめる学問であり、人間性をおろそかにしては社会に適合できない医師、薬剤師、あるいは研究者となってしまうおそれがあります。

諸君が今考えている医学、薬学に対する期待感はそれぞれ個人によって異なると思います。癌やエイズを治すための学問をしたいという具体的なものから、生命の起源や真理を探求するためというやや漠然としたものや、ひょっとするとただなんとなくという受身型もあるかもしれません。しかし、諸君の現在の考え方や価値観はこれから卒業するまでの4年間あるいは6年間に大きく修正され、変化するでしょう。どのように修正、変化するかは諸君自身の問題であり、我々が強制すべきものではありません。いろいろな考え方があってよいのです。画一的な教育は大学の使命ではありません。大学では、多くの友人を作りたいと思います。特に、初めの2年間は一般教育で広い分野の学問に触れ、専門分野の違う友人を作ることをお勧めします。いろいろな友人の中で自分を客観的に見直し、孤独な受験生活から早く抜け出し、人間性を取り戻してほしいと思います。クラブ活動も先輩、後輩の関係をはぐくむ良い場となります。お互いの出会いと交友関係を大切にしてほしいと思います。

諸君の周りに変人奇人の素質を持った人があるのはあるかもしれません。もし君自身が変人奇人であっても悩むことはありません。一つのことに没頭できる集中力を持っていれば、君は将来の大発明、大発見者の卵かもしれないからです。豊かな創造力、

鋭い洞察力とたゆまぬ実行力を養っておいてほしいと思います。ただ、諸君の年齢はある種の精神疾患の好発年齢もあります。この病気も環境によっては発病を予防できるし、早期発見、早期治療によって治すこともできます。皆さんでよい環境を作るよう努力して下さい。

今、医療が社会から問われているのは脳死、臓器移植、薬害、人工受精など、医学、薬学の進歩にともなって、科学技術が独り歩きすることに対する批判であります。これに加えて、医師、薬剤師の倫理性の欠如や社会性の欠如がこのような独走を許していると多くの人が考えているからであります。

諸君が現在考えている医療とはどのようなものでしょうか。医療は医学や薬学の研究成果を国民の合意のもとに利用するものであり、医学、薬学の進歩なしには医療も進歩しません。そればかりか、医療が国民から遊離し、不信感を持たれることは医学、薬学の進歩、科学技術の進歩があってもまったく前進できなくなります。例えば、脳死も、尊厳死も、臓器移植も、国民の合意が得られないで、今のところ我が国は医療とはなっていません。

最近の学問の進歩は目覚ましいものがあり、学部段階ではこれらのすべてを教育できなくなり、必要最小限の職業教育を行うようになりました。基礎研究なしには医療は進歩しないといいましたが、基礎的研究は次第に大学院の教育、研究で行われるようになってきました。できるだけ多くの研究者が育つよう、卒業後の大学院への進路も考えてほしいと思います。

おわりに、諸君が健康に恵まれて、有意義な学生生活を過ごし、やがて人間性豊かな医師、薬剤師、あるいは研究者となることを願っています。